

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 146 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2004.11.12（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の  
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

[http://www.taiyo-c.co.jp/public\\_html/yamazaki/yama\\_index.htm](http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_index.htm)

\*\*\*\*\*発行部数 1497 部\*\*\*\*\*

---

□ 目 次 □-----

<巻頭言>災害に思う「もうひとつの日本」 小泉浩郎

<今週の提言>昭和の軍国主義とブッシュのテロ戦争 林 尚孝

<79歳の意見>「まだ若い」という意識が危ない「転倒」 原田 勉

<日本たまご事情>

世界たまご屋会議 IEC (International Egg Commission)—その3—

愛鶏園・齋藤富士雄

<農文協図書館情報> (10/29 更新) 農文協図書館・原田太郎

<編集後記・同人の近況報告>10月28日～11月11日

---

<巻頭言>災害に思う「もう一つの日本」

仙台と山形を結ぶ仙山線の途中、「閑かさや 巖にしみ入る 蝉の聲」で有名な山寺の近くに芭蕉記念館がある。その一角に「山形—山の向こうのもう一つの日本」と題する記念碑がある。親日家で知られる元駐日アメリカ大使ライシャワーのものだ。

その要旨は、日本では、近代化された「東京や大阪などの大都市」や歴史と文化を残す「京都や奈良のような都市」も見逃せないが、しかし、山形県を例に出し「もう一つの日本」を見落としてはならないとしている。そこは、住民にとって快適な生活空間であり、日本の本来の姿を思い出させる美しいところである。将来において自然と人間が健全なバランスを取っている、そのような「もう一つの日本」に日本全体なることを望むとしている。

近代化した大都市国家日本、また固有の歴史・文化を誇る伝統日本も良い。だが、日々の暮らしのなかで守り育てられている自然と人間の快適な生活空間

こそ、日本の本来の美しい姿ではないかと30数年前に問いかけている。

「澄んだ空気、豊かな緑、そして山を切り開いて頂まで続く田畑は、まるで村全体が箱庭のような美しさです」。中越大地震で全村避難命令が出た山古志村のホームページの冒頭の言葉である。予期せぬ震災で営々と築き上げてきた風土と暮らしが無残に破壊されてしまった。錦鯉の発祥の地、伝統を誇る闘牛、美しい景観は、まさに自然と人間との健全なバランスの上にある。そのバランスは農村に人々が住み、暮らしを立て、農の営みが行われることによって保たれてきた。それが一夜の内に瓦礫と化し、湖の中に沈もうとしている。

山古志村の皆さんをはじめ非難を余儀なくされている皆さんの1日も早い「いつもの暮らし」への復帰を心からお祈りし、世界に誇る国土本来の姿、「もう一つの日本」の復興に国を挙げて取り組んで欲しい。

小泉 浩郎

山崎農業研究所事務局長

y.noken@taiyo-c.co.jp

---

<今週の提言>昭和の軍国主義とブッシュのテロ戦争

---

20世紀のめざましい科学技術の発展を受けて21世紀は「知の世紀」と期待されていた。現実にはイスラエルとパレスチナ、イラクなどで泥沼のような事態が続き、環境問題、エネルギー問題など難問が山積していて、未来への展望はまったく立っていない。

この三月、佐渡に住む須田中夫さんから分厚い封書を受け取った。「言いたい放題-平和への道“正義とは何か、悪とは何か”」と題して、1,280字詰め24枚の原稿が入っていた。イスラエル・パレスチナ問題でのテロと報復の果てしない連鎖に、21世紀が憎しみと対立に覆われることを恐れて、ご自分の意見をまとめたものであった。

佐渡に須田さんを訪ねたのは今から13年前であった。防除機噴口の農民発明家が佐渡に住んでいるとの噂を確かめるためであった。彼の発明により動力噴霧機による防除方法が一変したにもかかわらず、専門家にも詳しい事情は知られていなかった。

須田さんはこの発明で、フランス、イギリス、イタリア、アメリカ、ドイツなどの諸国の特許を取得された。しかし、日本では大手の農機メーカーの異議申し立てなどにより実用新案が公告されるまでに7年を要した。重装備による粉剤散布作業の苦しさと同時に農薬に触れたときのひどい痒みに悩まされての発明であった。発明だけではなく、0.08mmの薄くて長いポリエチレン管に一定間隔に穴を開け、成形する加工機も作り上げていた。最盛期には年間55万本という驚異的な出荷を行ったという。訪問したときには、須田さんは農民ではなく工場経営者になっておられた。

学会誌に須田さんの業績を紹介してから、須田さんとの付き合いが長く続いている。須田さんが朱鷺の保護運動を熱心に進めておられることは知っていた。しかし、世界の動きに関心をもたれ、パレスチナ・イスラエル問題やイラク戦争についてご自分の考えをまとめられているとは思ってもいなかった。81歳になる須田さんが21世紀の世界を憂慮し、ワープロでご自身の考えをまとめたエネルギーと熱意に比べ、私自身は何をしているのだろうと衝撃を受けた。

農民発明家らしく、須田さんはテロを表面的な現象としてではなく、その本質について考究されていた。テロ行為が起こる原因を絶たないかぎりテロはなくなると思え、テロの原因を不平等な人間関係に求められていた。現在のブッシュ大統領によるテロ戦争は、かつての日本が歩んだ道の延長線上にあるとし、昭和の軍国主義時代の出来事を詳細に検証されていた。深い思索の結果に感銘を受けた。

佐渡に住む一市井人がこの様な考え方をしていたことを後世に残したいと希望され、お手伝いした。その結果、「昭和の軍国主義とブッシュのテロ戦争」と題して同時代社から7月末に刊行された。「海図のない21世紀」を無力感と諦めの境地で毎日過ごしている自分自身を、須田さんの生き方が叱咤激励してくれている。ブッシュ大統領が再選された現在でも、絶望することなく粘り強く自分の生き方を貫くことの大切さを痛感している。

林 尚孝

山崎農業研究所顧問、茨城大学名誉教授

y.noken@taiyo-c.co.jp

---

<79歳の意見> 「まだ若い」という意識が危ない「転倒」

---

クイズ 10月10日は何の日でしょう？

オリンピック記念の体育の日はあたりまえですが、それと違います。

正解は、10・10（テントウ）転倒防止の日と、身体教育学会で決めたものです。最近、転倒・骨折が増えているからです。（2004年から）

転倒とは東京消防庁によると「同一面上でバランスを失い受傷したもの」だそうです。普通の道路や家の居間、廊下、階段ですべて転び、ときには救急車のお世話になる人が多いのです。

それは、高齢者だからだろうといわれるあなた、貴方は「まだ若いから大丈夫」と思っているが、とんでもない。50歳すぎたら急に転倒による骨折が増えています。

バスや電車で駆け込んだり、急に雨が降ってきて走り出したことがあるでしょう。そのとき、滑って膝をついたり、転倒して手首・足、膝を骨折したり捻挫することは良くあることです。

「まだ自分は若いと思っている」意識が危険を生みます。転倒にたいする意識を変える自覚が必要です。身体教育学会の狙いの一つです。

次は高齢者が寝たきりになる大きな原因は転倒・骨折だから、その防止を意識し、予防しましょうということです。

私も今年の正月、新年の挨拶に伺ったら、105歳の近藤康男先生に「年寄りには転びやすいから気をつけて」と注意をうけました。自分はまだまだと思っていたが最近違います。

5年前の脳出血の後遺症が、今になって左手と左足のしびれが顕著に現れてきました。体全体の老化で手足の筋力が衰え、足腰が弱くなって転びやすくなって杖のお世話になる事態になりました。

若い時からの運動不足の積み重ねで、足腰が衰え、併せて動脈硬化で高血圧症になり若いときのようにさっさと歩けなくなりました。運動機能も感覚機能もすっかり変調をきたしたのが原因です。

自分自身の体の変化を知り、こまめに体を動かし、バランスの良い3度の食事を摂り、毎日少しずつの効果的な運動をつづけることが転倒・骨折を防ぎ、人様の迷惑にならないよう、寝たきりや介護される状態にならないように気をつけて行きたいと思っています。

これから、65歳以上の高齢者が人口の30%を超える日が近い。転ばぬ先の杖という例えのとおり、失敗しないために用心するにこしたことはありません。

私も、転ばぬ先の「杖」を使う練習を始めました。杖を使ってみるといろいろと今まで見えなかったものが見えてきました老人だからこそ解るようになりました。その報告は、またの機会に致しましょう。

◆参考図書 武藤芳照『武藤教授の転ばぬ教室 寝たきりにならないために』  
暮らしの手帖社 2001年刊 1619円+税

<http://www.trc.co.jp/trc/book/book.idc?JLA=01030572>

- 主な目次
- 1、死ぬまで元気でいたい
  - 2、人が転ぶ・・・転倒事例いろいろ
  - 3、転びやすい人
  - 4、転ばないために
  - 5、転んでも起きればよい・治療とリハビリ

◆参考リンク

身体教育医学研究所

<http://www.shintai-mimaki.org/>

転倒予防医学研究会

<http://www.ellesnet.co.jp/tentou/index.html>

山崎農業研究所会員・『電子耕』編集同人

原田勉

<http://nazuna.com/tom/>

---

<日本たまご事情>

世界たまご屋会議 IEC (International Egg Commission)—その3—

---

現在の日本の鶏卵事情を 10 分以内で英語で説明しなければならない、それも 150 名くらいの前で…… まさにトホホである。この仕事を 40 年もやってきているから日本の鶏卵事情はなんとかなる。問題は英語の表現力だ。

英会話は相手とのやり取りがあるから何とか続く、判らなければ聞き返せば良い。しかし一方的に自分の英語でまとめた意見を述べた経験はほとんどない。私の英語の表現力は自称、中学生に毛の生えた程度のといったら中学生が怒るだろう。その程度のものだ。

悔やんでいても仕方ないので、発言趣旨を出来るだけ短い英文で箇条書きにしていた。

- \*幸運にも日本人はタマゴが好きである
- \*日本人のタマゴ摂取量は世界一で一人当たり年間 333 ヶである
- \*その 95%を自給し 5%を輸入している
- \*日本には刺身文化がある、魚もタマゴも新鮮な生で食べる習慣がある
- \*そしてそれが一番美味しいと信じている
- \*日本人はタマゴの鮮度について世界一うるさい国民である
- \*そのため日本の鶏卵関係者は鮮度の向上に努力した
- \*日本人はタマゴを世界一食べて男も女も世界一の長寿国である
- \*タマゴのコレステロールが健康に悪いのではなく要は食事のバランスである
- \*この問題は日本の例を見ればわかる
- \*不幸にして今年の 1 月日本の西部で 4 農場鳥インフルエンザ (A I) の発生が 79 年ぶりであった
- \*幸い日本の強力な防疫機能が働き約 25 万羽の処分での制御することができた
- \*この際、風評被害が鶏肉、タマゴともに多かった
- \*特に連日の TV、新聞による連日の報道が影響した
- \*A I の感染源は渡り鳥と言われているため今年も冬が心配である……

言いたいことはいくらかもある。要はこれ等を簡潔、明瞭に英語で相手に伝えられるかである。慣れない英語脳を使ったためと、旅の疲れも出でその晩は完成しないまま寝込んでしまった。

齋藤 富士雄  
(株) 愛鶏園

<http://www.ikn.co.jp>

---

<農文協図書館情報> (10/29 更新)

---

◆2004.9.1～9.30 登録の新規収蔵図書

<http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/book/01new.html>

◆ニュース：蔵書検索システムがリニューアルしました。

<http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/sp/200410/news1.html>

サーバー能力・プログラム・応答速度・データ精度が刷新されました。

◆話題の図書：

『DVD 版/ビデオ版 自力整体教室 ツボ刺激で健康増進 痛み解消』

矢上裕 考案・指導

<http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/book/03wadai025.html>

予防医学を提唱する矢上先生によって考案された整体法。

自然治癒力を回復し、自分の力で健康を維持していくことを目的としています。

年を取っていても、体が痛くても取り組みやすい、ゆるやかな動きが特徴。

「自己マッサージ」とも表現されます。お金がかからず、体に無理がかからず、医者にもかからない、画期的な整体法です

農山漁村文化協会 発行

農文協図書館 IT 担当 原田太郎

<http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/>

---

<編集後記・同人の近況報告> (10月28日～11月11日)

---

<今週の提言>で林尚孝さんがブッシュのテロ戦争にふれているが、イラクでは、11月8日から米軍によるファルージャへの総攻撃が始まった。武装勢力の解除、とくに武装集団「イラク・アルカイダ機構」のザルカウィ幹部の拘束をねらった攻撃である。しかし、ザルカウィ幹部はこの攻撃前にファルージャを脱出している可能性が高く、混乱はイラク各地に拡大しつつあるという。

大量破壊兵器を保持し、テロ集団を支援しているフセイン政権を倒す——これがアメリカがイラク戦争を開始した理由であった。しかしアメリカの調査団は「イラクに大量破壊兵器の備蓄なし」、フセイン政権とテロ組織の関係についても「証拠はない」と結論づけている。

戦争の大義がゆらぎつづけるなか、開戦以降の民間人の死者は 10 万人にのぼる。政治学者のダグラス・ラミス氏は、ひとは個人による殺人行為を見聞きすると悲しい気持になるのに、国家——警察であれ軍隊であれ——によるそれにはショックを感じない傾向があるという（『経済成長がなければ私たちは豊かになれないのだろうか』、平凡社ライブラリー、2004 年）。これをラミス氏は国家の魔法（マジック）とよんでいるのだが、そんな魔法にだけはかかりたくない、自戒の意味を込めてそう強く思う。（山崎農業研究所会員・田口 均）

---

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

---

- 1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1 回 1 テーマ、10 行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
- 5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

---

◎投稿アドレス変更のお知らせ

---

電子耕への投稿アドレスは、発行人の変更に伴い、  
[y.noken@taiyo-c.co.jp](mailto:y.noken@taiyo-c.co.jp)

となっております。投稿される方はこちらのアドレスをお願いします。

次回 147 号の締め切りは 11 月 22 日、発行は 11 月 25 日の予定です。

最後まで読んで頂き有り難うございました。今後もよろしくお願い致します。

---



★『メールマガジンの楽しみ方』発売中

---

書名：岩波アクティブ新書 45 『メールマガジンの楽しみ方』

著者：原田 勉 定価：735 円 発行日：2002 年 10 月 4 日

発行所：岩波書店 ISBN4-00-700045-X

まえがき・目次・著者紹介・注文方法はこちら

<http://nazuna.com/tom/book.html>

---

『電子耕』から大切なお知らせ

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

[http://www.taiyo-c.co.jp/public\\_html/yamazaki/yama\\_mailmag.html](http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag.html)

<本誌記事の無断転載を禁じます>

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 146 号

バックナンバー・購読申し込み／解除案内

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

[http://www.taiyo-c.co.jp/public\\_html/yamazaki/yama\\_mailmag2.html](http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag2.html)

2004.11.12（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:y.noken@taiyo-c.co.jp>

\*\*\*\*\* ここまで『電子耕』 \*\*\*\*\*